

ルーヴェンカトリック大学 (KU Leuven) との交流深化に向けて

本研究科は、ベルギーのルーヴェンカトリック大学法・犯罪学学部 (The Faculty of Law and Criminology, KU Leuven) との間で、2022 年 12 月に交流協定を締結し、その一環として、



昨年夏から、両大学間で相互に学生を派遣する交流プログラムを開始しました。これまでに 2 回、各校総計 5 名の学生を選抜し、互いのサマースクールに派遣してきましたが、このたび初めて、相互に学生のセメスター派遣が実現する運びとなりました。そこで、さらなる交流の深化を図るため、2024 年 9 月 23 日～25 日に、山本隆司研究科長と KU Leuven 担当教員である滝澤紗矢子教授、ディミトリ・ヴァンオーヴェルベーク教授がルーヴェンを訪れ、今後の具体的な交流計画の内容やその深化について意見交換を行いました。

ルーヴェンカトリック大学は、15 世紀来の歴史を持ち、各種ランキングにおいて欧州の優れた大学の 1 つに挙げられるなど、国際的にも高い評価を得ています。EU 本部等の置かれるブリュッセルから電車で 20 分弱という場所柄、EU 法やヨーロッパ諸法に強みがあるほか、EU 司法裁判所裁判官など実務経験のある教授陣を多数擁しています。EU 法関連書籍を筆頭に充実した図書館を備え、歴史ある街並みの中心に溶け込んだ法・犯罪学学部は、教育・研究に没頭できる環境であることを実感しました。基本的な教授言語はフラマン語ですが、LL.M. 課程の授業は英語で提供されており、東大からの派遣学生も当該 LL.M. 課程の英語授業を履修しています。

今回の訪問においては、持続的かつ発展的な学生交流の方策を検討したほか、教員派遣を通じた相互の授業提供の実現に向けて前向きな話し合いが行われました。東大を紹介するために開催した説明会(2025 年 2 月に初めて東大で開催するウィンタースクールの案内を含む)には、学期始めにも関わらず 100 名近い学生が集まり、高い関心が寄せられていることを実感しました。

交流の深化を通じて、本研究科の国際化を促進するだけでなく、将来的には、日本とベルギー、ひいてはアジアと欧州のネットワークの深化に寄与することが期待されます。

